

大けやき

第 10 号
2.12.23
文責:校長

●冬休みのめあて

病気やケガのない冬休みにしよう

八十三日の長い二学期が無事終了しました。保護者の皆様の協力のもと、健康に気を付け、マスク、手洗いを励行し、新型コロナウイルス感染症防止に努め、ほぼ予定通りの学習活動を進めることができました。秋季運動会を始め、修学旅行や自然の家での宿泊学習、社会科見学、遠足、農業科の体験学習、児童集会等を通して、とても充実した学習ができました。



農業科が育てる子どもたちの力



喜多方市では、小学校で特別な教科として農業科を設けています。農作物の栽培から収穫まで年間三十時間程度を、地域の方から学んでいます。六年生は、里芋を育てました。鶴川琉星さんが書いた、農業科の作文を紹介します。一つの種芋から、ヒヨロヒヨロツとした芽が出てきました。美しい緑色でした。みんなで協力して、除草や水やりを行いました。暑い夏を乗り越えた里芋は、想像より大きく成長し



ていました。自分の胸ほどまでに成長した茎や葉は、あの頼りなかつた時と比べ、太くたくましく成長していました。収穫時、葉っぱを傘にして、トトロのポーズをしたことがとても心に残っています。収穫はというと、親芋から鈴なりになった子芋や孫芋がたくさん実っていました。十日には、収穫した里芋を使って会津の郷土料理「こづゆ」を作り美味しくいただきました。食は生きる基本です。食は物を育てる農業は、生きる知恵を数多く教えてくれます。農業を通して、子ども達は、作物を育てる喜びと苦労を知ります。そ

して、作物の特徴や育て方を科学的に理解したり、世界の課題である食料問題について考えたりしています。また、互いに協力する意味も体験を通して学びます。学校で行っている農業科は、子ども達に、国語、算数、理科、社会、家庭、道徳などの様々な学習に広がる総合的な力を育ててくれるのです。

全校朝会「世界人権デー」



十一日の全校朝会で、「世界人権デー」の話をしました。人権とは、「人は皆、だれからも傷つけられず、暴力を受けず、安心して、幸せに生きる権利」のことで、悪口を言われたり、暴力をふるわれたり、ひどいことをされないように守られていると言ったことです。

でも、私たちは、反対に誰かを傷つけることをしているのではないのでしょうか？一人一人、顔が違うように、感じ方や考えも違います。その違いから、ひどい言葉を使ったり、けんかしたりしたたりすることはありませんか？人権を守るためには、私たちは、お互いの違いを認め、尊重し、相手の気持ちを思いやること、とても大切です。コロナ感染症にかかった人の人権が守られず、苦しんでいたことが日本でもありました。皆さんにも、ぜひ、考えて欲しいことです。

そして、もし、嫌なことやつらく苦しいこと、そんなことが起きたとき、皆さんは、どうしますか？一人で悩んで、そのままにしませんか？

年賀状を書いたよ



三日（木）、三年生が、年賀状の書き方を勉強しました。講師は、喜多方市内の四つの郵便局長さんです。予め、送り先の住所、氏名、郵便番号、そして、自分の住所等を、お家の方に教えてもらって学習に臨みました。

初めに、講師の先生方から年賀状をいただき、表面に書く内容と位置について教わりました。遠く離れたおじいちゃんやおばあちゃんに出す児童が、多かったようです。

次に、裏面を書きました。楽しい絵を描いたり、相手がうれしくなる文章を考えたりして、上手に仕上げることができました。

最後に、特設ポストに投函しました。講師を務めてくださった郵便局様、ありがとうございました。

お願い

冬休み中に、もし、ケガや事故、コロナ感染等がありましたら、学校または担任にご連絡ください。